

図69

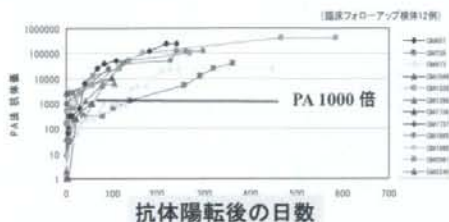
抗体量の測定による感染時期の推定

(臨床フォローアップ検体8例)

PA 法

PA価 (セロディアHIV-1) と
抗体陽転後日数との関係

PA 価 1000倍以内
感染後 1-2ヶ月以内



BED 法

OD値 (BED法; IgG結合EIA法) と
抗体陽転後日数との関係

BED値
0.4以内 2-3ヶ月以内
0.8以内 5-6ヶ月以内

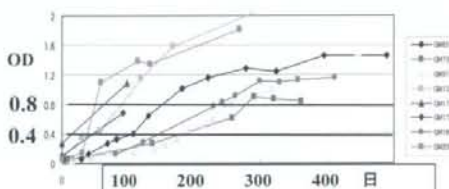
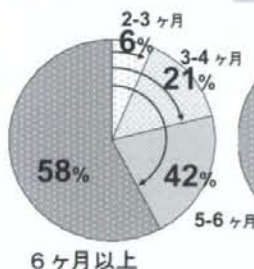


図70

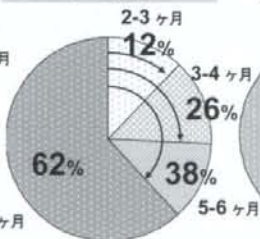
HIV抗体価から推測した感染時期とその割合

— HIV検査受検者、献血者、医療機関の比較 —

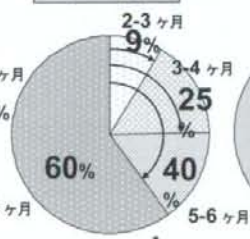
保健所等HIV検査
(東京95件)



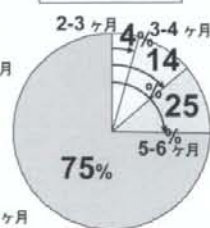
迅速検査クリニック
(183件)



献血者
(195件)



医療機関
(115件)



川崎日曜検査 (1505)

抗体陽性 2

NAT陽性 1 (3)

NATのみ陽性 3% (1ヶ月以内)
(19/674 4000万)

大宮クリニック (1235)

抗体陽性 13

NAT陽性 3 (19%)

図71

図 1 Real-time RT-PCR法の概要

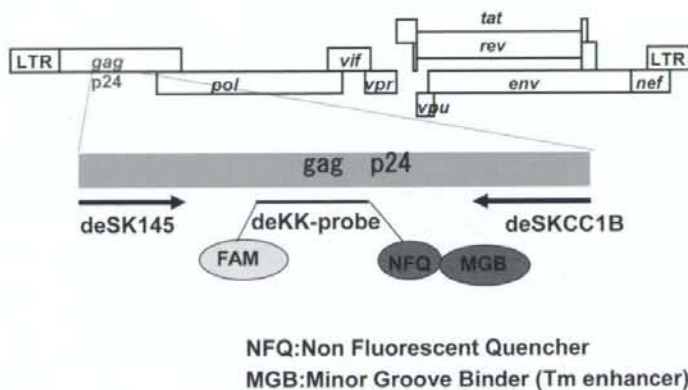


図72

図 2 縮重プライマーおよびプローブの塩基配列

◆ forward primer: deSK145

5'- AGTRGGGGGACAYCARGCAGCHATGCARAT - 3'

◆ reverse primer: deSKCC1B

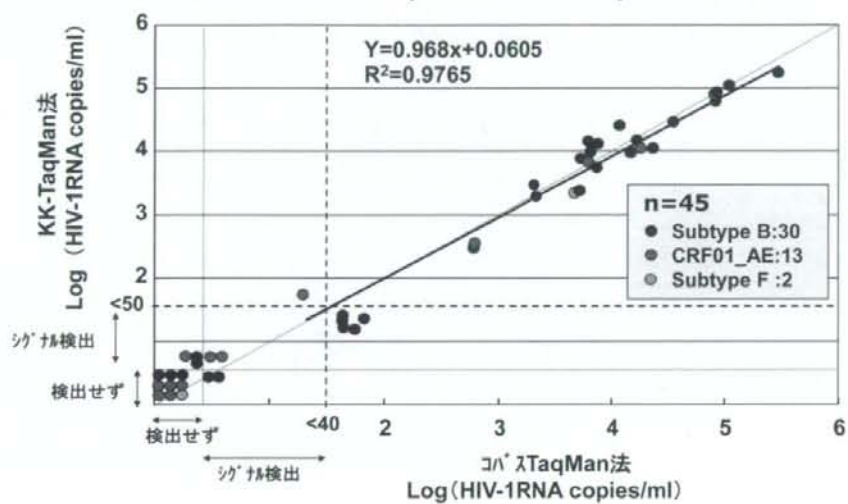
5'- TACTAGTAGTTCCTGCTATRTCACTTCC - 3'

◆ probe deKK-probe

5'- ATCAATGARGARGCTGCAGAATGGGA - 3'

図73

患者血漿におけるKK-TaqMan法とコハスTaqMan法の相関



II. 分担研究報告

(1) HIV 検査・相談機会の拡大に関する研究

1. ホームページ「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談機関 の情報提供とメディア等の広報効果のモニタリング

分担研究者	佐野（嶋） 貴子 （神奈川県衛生研究所）
協力研究者	清水茂徳 （ライフ・エイズ・プロジェクト）
	堀 成美 （東京都立駒込病院）
	角田英久 （ライフ・エイズ・プロジェクト）
	今井光信 （神奈川県衛生研究所）

研究要旨

当研究班では、保健所等検査機関におけるHIV検査情報の提供やHIV検査に関する知識の普及を目的としたホームページ「HIV検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)をPC版サイトおよび携帯電話版サイトに設置している。

PC版サイトは2001年9月に開設し、年々アクセス数は増加傾向にあったが、2008年は年間アクセス数87万件と、2007年とほぼ同じアクセス数であった。2008年12月末における総アクセス数は480万件に達しているが、更なるホームページ掲載情報の充実について検討したい。携帯電話版サイトの2008年の年間アクセス数は56万件と前年度比1.4倍の増加となっており、2008年12月末までの総アクセス数は155万件と、順調にアクセス数を伸ばしている。近年の携帯端末ユーザーの増加傾向が伺え、携帯電話版サイトも非常に有効に機能していることが分かった。

PC版のアクセス数では、2006年から2008年の間にアクセス数が10,000件を超えた日が4日、一日平均アクセス数の2倍（約4800件）を超えた日が18日あった。エイズ動向委員会の発表や世界エイズデーの関連報道等で件数が増加していた。このアクセス数を解析することで、HIVに関するメディア等の報道が受け取り側にどのようなインパクトや効果を与えたかを、HIV検査への関心の観点からモニタリングできるサイトとしても有効であることが分かった。

地域別のアクセス数を見たところ、東京のアクセス数は大阪と比べ2倍以上の差があり、また、大阪の検査機関全体のアクセス数は東京に次いで多かったが、保健所検査へのアクセス数は神奈川よりも少なかった。また、愛知のアクセス数も全体的に少なかった。アクセス数は利便性の高い保健所等無料検査の施設数に反映されていると思われることから、保健所等無料検査施設の機能充実（夜間、土日、即日検査）がさらに進むと良いと考える。

A. 目的

ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)を設置・運営することで、保健所等検査機関における HIV 検査情報を継続的により多くの人に幅広く提供すること、HIV 検査に関する正しい知識を普及することを目的とした。また、サイトの関

覧アクセス数や検査機関別のアクセス数をモニタリングすることにより、メディア等による HIV/エイズ報道の HIV 検査への影響や、より効果的な HIV 検査体制のありかたについて解析を行った。

B. 方法

保健所等無料 HIV 検査機関および研究班の即日検査研究協力機関である民間クリニックの HIV 検査情報等を提供するホームページ「HIV 検査・相談マップ」を作成し、PC 版サイトおよび携帯電話版サイトを開設した。PC 版サイトは 2001 年 9 月から、携帯電話版サイトは 2003 年 4 月から i-mode 版、2004 年 3 月からはすべての携帯電話からアクセスを可能とした。ホームページによる HIV 検査機関情報提供の効果を調査するため、PC 版および携帯版のトップページアクセス数の年次推移、日別推移、PC 版の検査機関詳細情報ページのアクセス数、また、地域ごとのアクセス数（東京、大阪、神奈川、愛知）を調査した。

C. 結果

PC 版トップページのアクセス数解析では、2008 年の年間アクセス数は 87 万件と、2007 年とほぼ同じアクセス数であった。1 日平均アクセス数は約 2,400 件であり、2008 年 12 月末における総アクセス数は 480 万件に達した（図 1）。携帯電話版サイトは 2008 年の年間アクセス数は 56 万件と前年度比 1.4 倍の増加となっており、1 日平均アクセス数は約 1540 件、2008 年 12 月末までの総アクセス数は 155 万件であった（図 2）。

PC 版トップページにある 5 つのカテゴリー検索（保健所無料検査、夜間・土日検査、即日検査、NAT 検査、性感染症検査）のアクセス数では、検査種別では「即日検査」、「夜間・土日検査」および「NAT 検査」、地域では「東京」、「大阪」、「神奈川」へのアクセスが多かった。また検査機関の詳細ページアクセス数では、「即日検査」、「夜間・土日検査」、「東京」、「大阪」のいずれかの条件に当てはまっている機関にアクセスが多かった。この傾向は 2006 年から 2008 年の間で大きな変化は見られなかった（図 3-5）。

HIV 検査機関で実際に受検した人の意見や感想、また、HIV 検査に関する質問等を受け付

ける問い合わせフォームには、2006 年から 2008 年の間に約 160 件のメールがあった。検査機関に対する苦情や要望事項については、検査機関に受検者の意見をフィードバックすることで HIV 検査の質の向上に努めた。また、受検者の検査についての質問や感染不安に対するメールには、メールによる応答によりその疑問や不安の解消に努めた。

PC 版のアクセス数では、2006 年から 2008 年の間に、2006 年 5 月のエイズ動向委員会の報道（1-3 月の献血陽性者が 10 万人あたり 2.036 人）で 12470 件、2007 年 1 月の HIV 検査結果誤通知の報道で 16031 件、2008 年 1 月の血液事業部会での報道（献血における HIV 陽性者が 102 名）で 20249 件、2008 年 8 月のエイズ動向委員会の報道で 21927 件と、アクセス数が 10,000 件を超えた日が 4 日あった（図 6-8）。特に、Yahoo! ニュースにリンクされることでアクセス数が急激に増加することが分かった。また、一日平均アクセス数の 2 倍（約 4800 件）を超えた日が 18 日あった。エイズ動向委員会での発表や 6 月の検査普及週間、12 月の世界エイズデーの関連報道等で件数が増加していた。

2008 年において、地域ごとのアクセス数を見たところ、東京が 532,003 件（保健所 339,488 件、他無料検査 48,258 件、有料 144,257 件）、大阪が 218,174 件（保健所 94,297 件、他無料検査 72,120 件、有料 51,757 件）、神奈川が 192,532 件（保健所 121,299 件、他無料検査 50,663 件、有料 20,570 件）、愛知が 93,158 件（保健所 76,283 件、他無料検査 10,591 件、有料 6,284 件）であった（図 9）。東京と大阪について 2007 年と 2008 年のアクセス数を比較したところ、2008 年はどちらのアクセス数も増加していた（図 10）。

D. 考察

ホームページの 2008 年のアクセス数は PC 版で約 87 万件、携帯電話版で約 56 万件に達

しており、HIV 検査情報を提供する媒体として非常に有効に活用されていることが分かった。しかし、PC 版のアクセス数は前年度とほぼ同じであり、頭打ちの傾向が見られたことから、来年度は更なるホームページ掲載情報の充実について検討したい。

検索カテゴリーや検査機関詳細ページのアクセス数調査では、即日検査等の受検者にとって利便性の高い検査機関に関心の高いことが分かった。検査の提供側はさらに検査希望者が受検しやすい検査体制を設定していく必要があると思われる。また、日別のアクセス数調査から、メディア等で HIV/エイズに関する報道された際に、その報道が一般の方にどのような反響を与えたかの効果を、HIV 検査への関心の観点から、モニタリングできるサイトとしても有効であることが分かった。

地域別のアクセス数を見たところ、東京のアクセス数は大阪と比べ 2 倍以上の差があり、また、大阪の検査機関全体のアクセス数は東京に次いで多かったが、保健所検査へのアクセス数は神奈川よりも少なかった。その理由として、大阪の保健所では即日検査を実施している機関が一箇所も無いためと思われた。愛知県では他の無料検査施設へのアクセス数が少なく、理由として、検査施設が日曜即日検査（栄サンサンサイト）一箇所であるためと思われた。2008 年の HIV 感染者/AIDS 患者報告数は、東京 541 件、大阪 232 件、神奈川 80 件、愛知 109 件であり、それに対し、大阪および愛知の検査機関へのアクセス数は少ないように思われる。アクセス数は利便性の高い保健所等無料検査施設数に反映されており、また、大阪、愛知はそれぞれ西日本地区、中部地区の中心的都市であることから、両都市の保健所等無料検査施設の機能充実（夜間、土日、即日検査）がさらに進むと良いと思われる。

ホームページは継続して、より多くの人に

情報を提供する手段として非常に有効である。HIV 相談検査事業の情報提供、HIV 検査に関する知識の普及に、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」は今後も HIV 検査について網羅した、より実用性の高いホームページとなるよう、情報提供に力を入れて行きたい。

マスコミ等での紹介

（新聞）

*日刊スポーツ（2008 年 2 月 24 日）

エイズ検査目的の献血はやめましよう

—患者さんのために献血を—

（即日検査実施紹介、ホームページ紹介）

*朝日新聞 日曜版（2008 年 2 月 24 日）

“今さら聞けない”—HIV 即日検査—

（即日検査実施紹介、ホームページ紹介）

（夜間検査、性感染症検査実施機関紹介）

*神奈川新聞（2006 年 12 月 4 日）

エイズ対策 まず検査しやすい体制に

（即日検査紹介）

*朝日新聞（2006 年 11 月 25 日）

クラミジア抗原検査、県が初導入

—HIV 受検者に—

（夜間検査、性感染症検査実施機関紹介）

*神奈川新聞（2006 年 1 月 15 日）

HIV 即日検査徐々に浸透

—実施の県と横浜市 受検者数増え続け—

（即日検査実施紹介、ホームページ紹介）

（雑誌、教材）

*JICA 教材

「どうなる、どうする、身近なエイズ —あなたの赴任国と HIV/AIDS—」（e-ラーニング）

*Big Pleasure Night Magazine（風俗客向けフリーペーパー：2007 年 4 月号）

（「HIV 検査・相談マップ」アドレス紹介）

*Have a nice SEX！（MSM のための冊子 Safer Sex Guide：2007 年）

（「HIV 検査・相談マップ」アドレス紹介）

*MOM（2006 年 7 月号）

(「HIV 検査・相談マップ」アドレス紹介)

(インターネットサイト)

* Yahoo!ニュース

(「HIV 検査・相談マップ」アドレス紹介)

2008年8月：エイズ動向委員会報道

2008年1月：血液事業部会報道（献血における HIV 陽性者が 102 名）

2007年1月：HIV 検査結果誤通知報道

2006年5月：エイズ動向委員会報道

* 日経メディカルオンライン

(「HIV 検査・相談マップ」アドレス紹介)

(テレビ)

* フジテレビ (2006年5月23日)

とくダネ! FNS チャリティーキャンペーン

「エイズと闘う子供たち アフリカ南部マ
ラウイからの報告」

(HIV 検査迅速キット紹介)

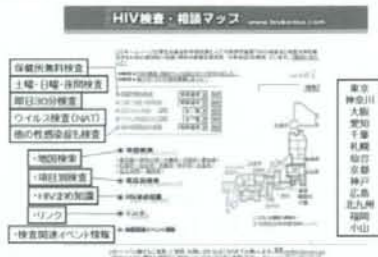
(※マスコミ等での紹介は研究班で把握して
いるもののみ記載してあります。)

図1

ホームページ
HIV検査・相談マップ
<http://www.hivkensa.com>

2008年12月現在
1日平均アクセス数
約2400件/日

2001年9月からの
合計アクセス数
480万件



年別合計アクセス数 (2001年～2008年)

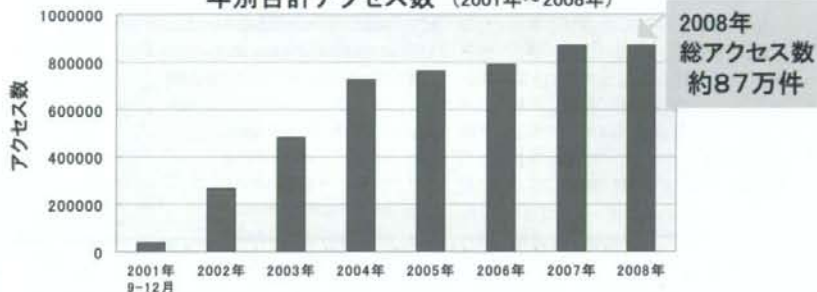
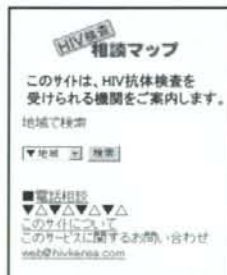


図2

携帯電話版サイト
HIV検査・相談マップ
<http://www.hivkensa.com>

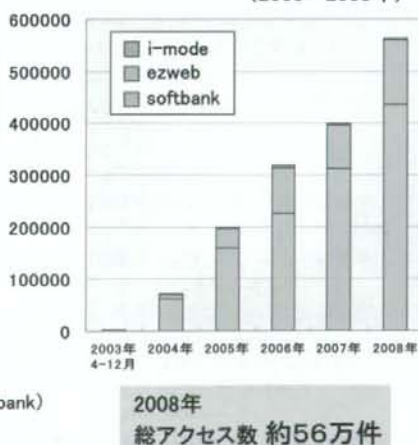
2008年12月現在
1日平均アクセス数
約1540件/日

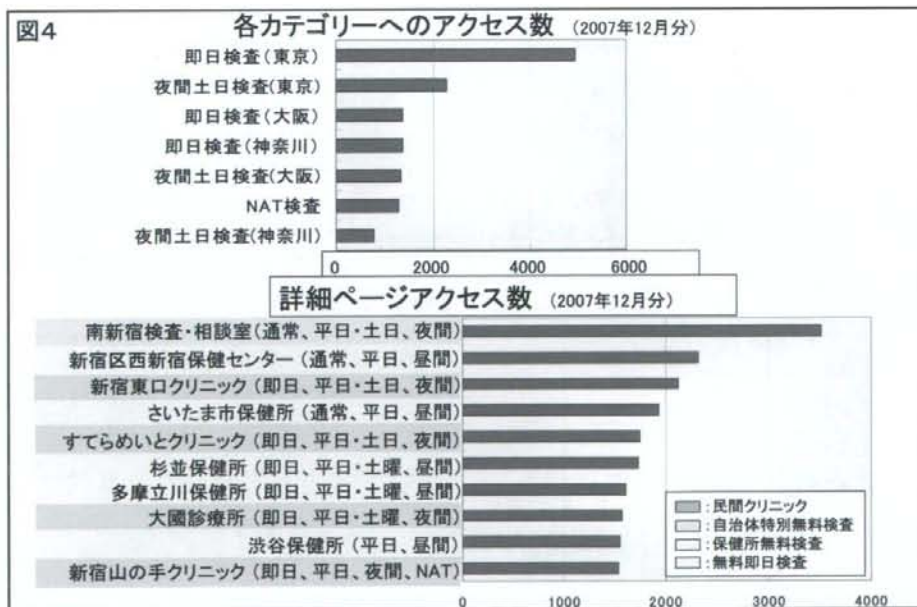
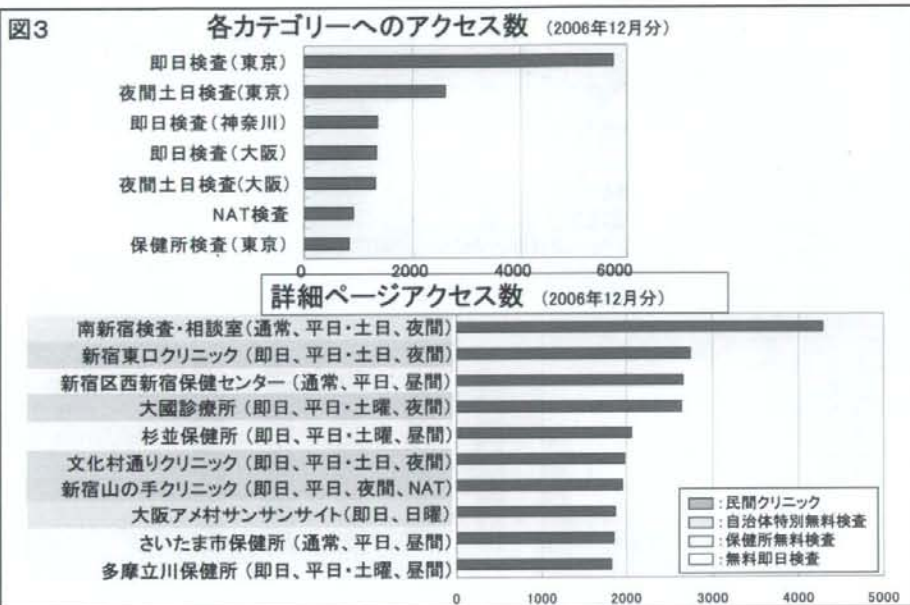
2001年12月からの
合計アクセス数
155万件

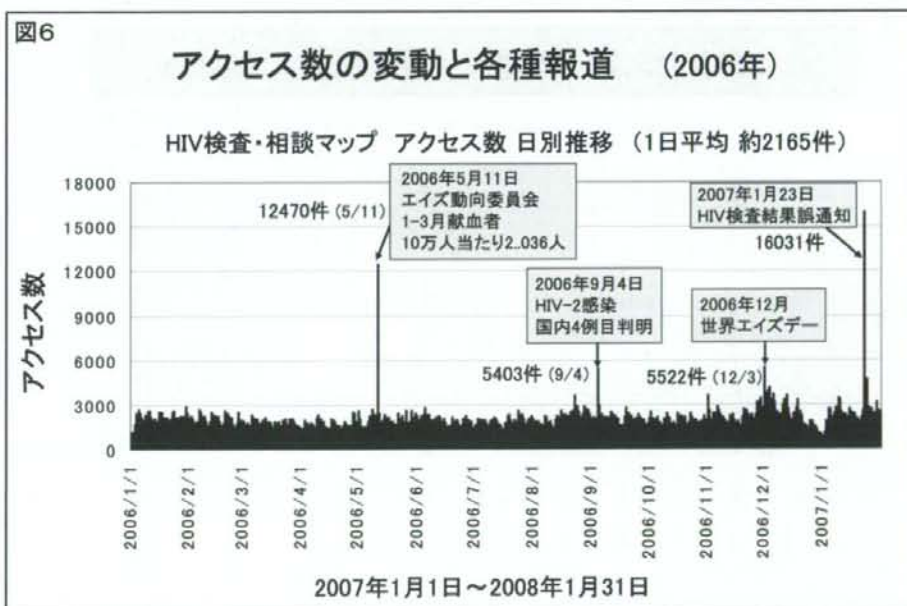
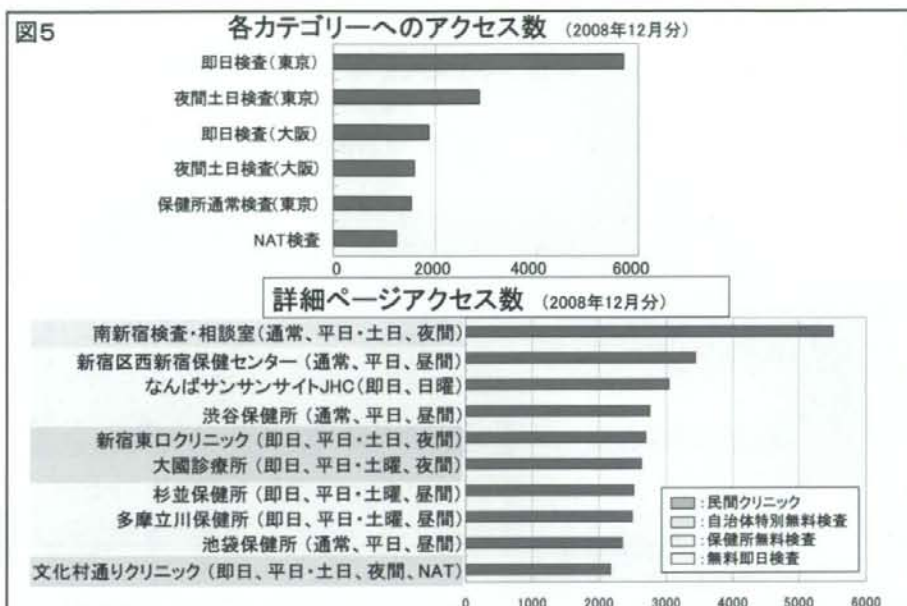


2004年3月より
全ての携帯電話で
(i-mode, ezweb, softbank)
アクセス可能

年別合計アクセス数
(2003～2008年)







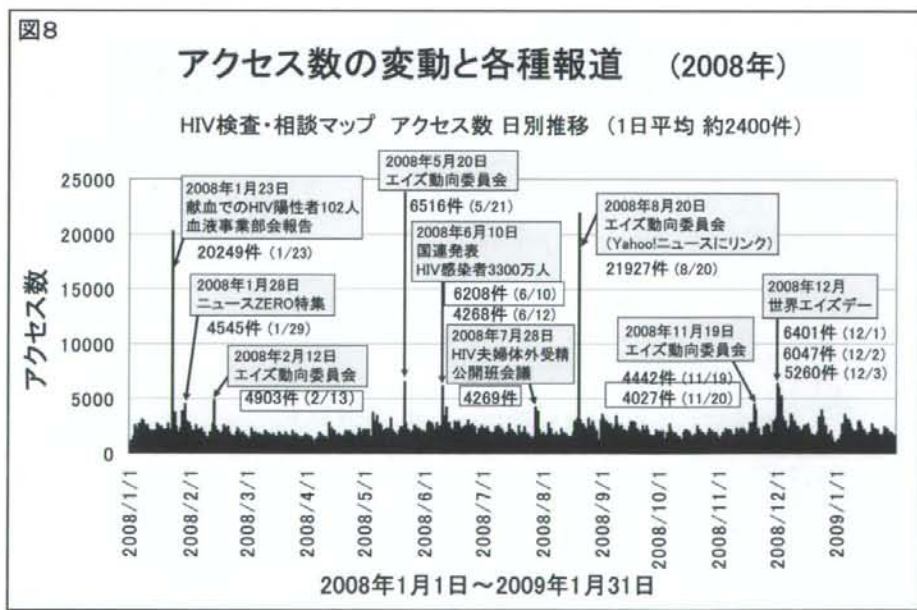
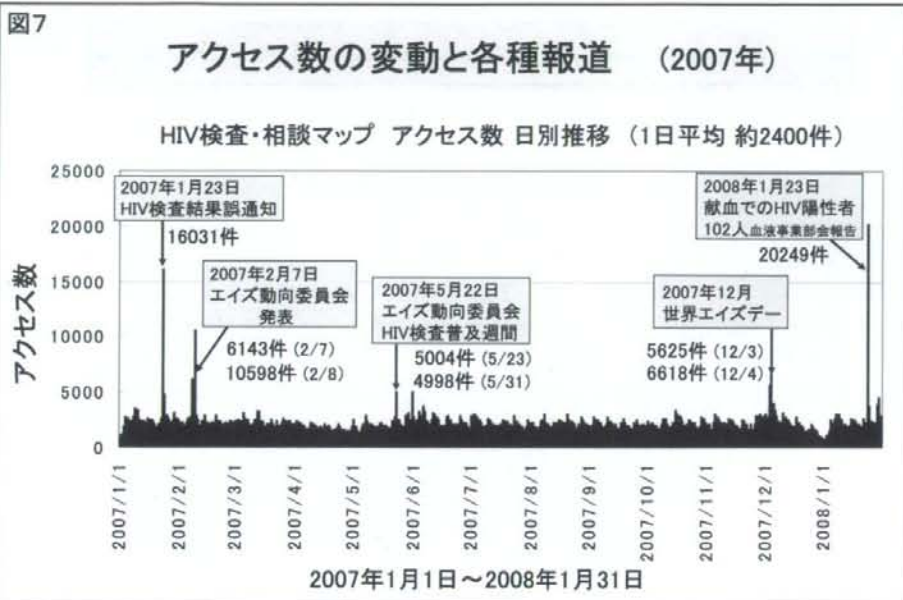


図9

地域別のアクセス数（東京、大阪、神奈川、愛知）

2008年アクセス数

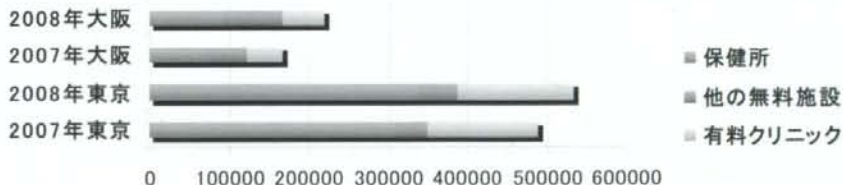


即日検査実施機関数/全機関数	東京	大阪	神奈川	愛知
■ 保健所	10/32	0/30	8/37	7/31
■ 他の無料施設	0/1	1/5	3/6	1/1
■ 有料クリニック	10/10	3/3	3/3	1/1

図10

地域別のアクセス数（東京、大阪）

2007年/2008年アクセス数



即日検査実施機関数	東京	大阪
■ 保健所	10/32	0/30
■ 他の無料施設	0/1	1/5
■ 有料クリニック	10/10	3/3

2. HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H18 年-H20 年)

今井光信	(神奈川県衛生研究所)
嶋 貴子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
大野理恵	(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)
須藤弘二	(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)
近藤真規子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
中瀬克己	(岡山市保健所)
角野文彦	(全国保健所長会会長)

研究概要

本研究班では保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、また、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象とした HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を H18 年から H20 年に亘り毎年実施した。

3 回の全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所等の協力により、対象と施設の 90%以上 (H18(94%), H19(94%), H20(90%)) から回答を得ることができた。

アンケート結果では、回答の得られた保健所等で、H18 年には 86,604 件、H19 年には 117,521 件、H20 年には 128,249 件の検査が行われ、各年の陽性数陽性率はそれぞれ 249(0.3%)、279(0.24%)、280(0.22%)であった。陽性結果を受検者本人に伝えられた件数と率は 234(94%)、264(95%)、259(93%)であった。また、陽性と分かった受検者がその後医療機関に受診したことを把握できている件数は各年で 177(71%)、223(80%)、208(74%)であった。また、陰性結果については、各年とも 98%が受検者に結果が伝えられていることが分かった。

感染症法に基づく届出に関しては、平成 20 年に陽性と分かった 280 件中の 206 件については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

即日検査の実施状況に関しては、平成 18 年に即日検査を実施した保健所は、回答のあった保健所の 45%であったが、H19、H20 には 58%、59%と増加していることが分かった。また、土日夜間検査については、各年で、27%、45%、43%であった。

保健所以外の特設の検査相談施設を対象としたアンケート調査では、毎年対象とした施設全てから回答が得られ、各年の対象検査相談施設数・検査数・陽性数・陽性率は 9カ所、21,725 191(0.9%) ; 11カ所 24,684 195(0.8%) ; 17カ所 25,887 164 (0.6%)であった。

今回の保健所アンケート実施の一つのきっかけでもあった誤通知問題に関しては、結果返しの過程において、一時的に誤った結果が伝えられた事例が毎年 HIV 検査に関して一例、その他の性感染症検査において一例ずつあり、今後とも、誤通知等の事故防止に関する取り組みについては、さらに強化する必要のあることが分かった。

また、平成 20 年度の速報値では、新規の HIV 感染者報告数が 1545 件(感染者 1113 件、患者 432 件)と年々増加しつつあること、その中でエイズ発症者の比率が 28%と依然高いこと、献血者の中での HIV 検査陽性者数も 107 件と増加していること等を考えると、保健所等の HIV 検査相談に求められている役割はさらに大きなものであり、受検者増と検査相談の質の向上に向けてのさらなる努力が必要と思われる。

A. 目的

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

B. 方法

全国の保健所およびその支所等の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等の特設 HIV 検査相談施設を対象に、平成 18, 19, 20 年に年 1 回、HIV 検査相談に関するアンケート調査票（資料 1 参照）を郵送し、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

C. 結果

3 回の全国保健所アンケート調査において、全国の保健所等の協力により、対象とした施設の 90%以上 H18(94%)、H19(94%)、H20(90%) から回答を得ることができた。また、特設検査相談機関については、対象とした施設の全てからアンケート結果を回収できた。

① 保健所における HIV 検査相談の実施率

回答のあった保健所等施設のほとんど(99%以上)が HIV 検査相談を実施していた。

② HIV 検査総数と陽性率

回答の得られた保健所等で、H18 年には 86,604 件、H19 年には 117,521 件、H20 年には 128,249 件の検査が行われ、各年の陽性数陽性率はそれぞれ 249(0.3%)、279(0.24%)、280(0.22%)であった。

③ HIV 検査陽性者の結果通知と医療機関受診の把握率（図 2, 3）

陽性結果を受検者本人に伝えられた件数と率は 234(94%)、264(95%)、259(93%)であった。また、陽性と分かった受検者がその後医療機関に受診したことを把握できている件数は各年で 177(71%)、223(80%)、208(74%)であった。ま

た、陰性結果については、各年とも 98%が受検者に結果が伝えられていることが分かった。

④ HIV の確認検査陽性例の報告

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成 20 年に陽性と分かった 280 件中の 206 件(74%)については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

⑤ HIV 検査以外の性感染症検査について

平成 20 年の調査では、HIV 検査以外の性感染症検査に関しては 409 施設(76%)の保健所等で実施しており、その内訳は、梅毒検査 342(64%)施設、クラミジア抗体 275(52%)施設、クラミジア抗原 57(11%)施設、淋菌 30(6%)施設、B型肝炎 126(24%)施設等であった。これら、HIV 検査以外の性感染症検査の実施状況は平成 18 年、19 年、20 年の 3 年間で大きな違いはみられなかった。

④ 即日検査の実施状況

即日検査の実施状況に関しては、平成 18 年に即日検査を実施した保健所は、回答のあった保健所の 45%であったが、H19、H20 には 58%、59%と増加していることが分かった。

⑤ 土曜・日曜・夜間検査の実施状況

土日夜間検査については、平成 18 年には、実施保健所が 27%であったが平成 19 年には 45%に増加し、平成 20 年には 43%と横這いであった。

⑥ 検査法と実施時間の組み合わせ

平成 20 年の調査では、通常平日の検査は 30%、通常夜間が 8%、通常土日が 2%であり、即日平日が 17%、即日夜間が 10%、即日土日が 5%であり、両検査平日が 6%、両検査夜間が 12%、両検査土日が 7%であった。通常平日の組み合わせの占める比率は 30%で多くの検査施設がより利便性の高い検査相談の提供に努力していることが分かった。

⑦ 年間検査件数別の保健所分布

平成 20 年の調査では、年間検査件数別の保健所分布に関しては、年間検査件数が 50 件未満の保健所数は 123 箇所(23%)、50 件以上 100 件未満は 83 箇所(16%)、100 件以上 200 件未満は 128 箇所(25%)、200 件以上 500 件未満は 122 箇所(23%)、500 件以上 1000 件未満は 51 箇所(10%)、1000 件以上は 18 箇所(3%)であった。平成 18 年に比べ年間 50 件以下の保健所の割合が 38%から 23%に減少しており、即日検査等利便性の高い検査相談の導入と関連して、受検者増に繋がったものと思われる。

⑧ 年間検査件数別の検査数

平成 20 年の調査では、年間検査件数が 200 件以上の保健所数は 36%であったが、そこで実施された検査件数は、検査数計の 79%を占めていること、また、年間 500 件以上の施設は 13%であるが検査数の 49%を占めることが分かった。これらの結果については、平成 18 年の調査から大きな変化はみられなかった。

⑨ 年間検査件数別の陽性率

平成 20 年の調査では、保健所等の HIV 検査相談における陽性率は、平均では 0.22%であり、年間検査数別に調べると、検査数 50 件未満の保健所では 0.07%と低く、200-499 件の施設では 0.17%、1000 件以上の施設では 0.36 と検査数の多い施設ほど陽性率も高い傾向がみられた。

⑩ 予約制の有無

平成 20 年の調査では、通常検査の実施施設の 52%、即日検査の実施施設の 81%が予約制を実施しており、またその場合通常検査の 60%、即日検査の 83%が上限をもうけていることが分かった。

⑪ HIV 検査の結果返しの期間

平成 20 年の調査では、通常の HIV 検査を行っている保健所における検査結果返しは、1 週間後が 68%、2 週間後が 22%であった。即日検査を行っている保健所において、スクリーニング検査陽性となった時の確認検査の結果

返しに関しては、1 週間後が 53%、2 週間後が 30%であった

⑫ HIV 検査の実施施設

平成 20 年の調査では、通常検査の場合、一部は自保健所で実施されているが、衛生研究所への委託が 46%、外部委託による検査は 28%であった。また、確認検査に関しては衛生研究所への依頼が 76%で、外部委託は 17%であった。即日検査の場合、迅速検査の実施者は、自施設の検査職員が 64%、医師、保健師が 16%、であり、確認検査は衛生研究所で行う 75%外部委託は 16%であった。これらの状況は平成 18 年の調査結果と大きな違いはみられなかった。

⑬ 特設検査相談施設における検査相談

平成 20 年の調査では、17 箇所の特設検査相談機関での検査総数は 25,887 件で、陽性例は 164 例(0.6%)であった。これら陽性例において、受検者が陽性の確認結果を受け取りに再来所したのは 156 例(95%)であった。

また、この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は 123 例であり、陽性結果を伝えられた 156 例中の 79%、全陽性例中の 75%であった。

D. まとめと考察

今回行った全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所の協力により、対象とした 593 の保健所等施設の 90%、534 施設から回答を得ることができた。

アンケート結果では、HIV 検査を実施している全国の 533 保健所等施設で、平成 20 年には 128,249 件の HIV 検査が実施され、そのうち 280 件(0.22%)が陽性であった。この 280 件の陽性例のうち、259 件(93%)が再来所して陽性の結果を受け取っており、その 208 件(74%)については、その後医療機関に受診していることが保健所において確認されていることが分かった。医療機関に繋がったことの確認できた率は、一昨年調査よりは高い率に

なっているが昨年よりは若干低かった。

また、HIV 検査相談の利便性の向上に関しては、即日検査を実施している保健所の比率は 59%とほぼ昨年と同じで、即日検査の導入も普及が進み定着しつつあることが分かった。また、通常検査のみを実施している保健所(41%)であっても、夜間、土日検査等受検者に利便性の高い時間帯の検査を実施している保健所が 10%あり、平日昼間の通常検査を実施している保健所は全体の 30%であった。しかしながら、即日検査の導入に関しては地域的な偏りもみられ、また、平成 20 年度の速報値では、新規の HIV 感染者報告数が 1545 件(感染者 1113 件、患者 432 件)と年々増加しつつあること、その中でのエイズ発症者の比率が 28%と依然高いこと、献血者の中での HIV 検査陽性者数も 107 件と増加していること等を考えると、保健所等の HIV 検査相談に求められている役割はさらに大きなものであり、受検者増と検査相談の質の向上に向けてのさらなる努力が必要と思われる。

謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所等関係者の皆様方に深く感謝致します。

保健所におけるHIV検査体制に関する全国調査の結果

保健所アンケート						
	2006年		2007年		2008年	
アンケート送付数	536		618		593	
回答数	504	(94%)	568	(94%)	534	(90%)
HIV検査実施保健所数	501	(99%)	566	(99.6%)	533	(99.8%)
陽性結果のあった保健所数	120	(24%)	130	(23%)	122	(23%)
陽性件数	249	(0.3%)	279	(0.24%)	280	(0.22%)
陽性結果を伝えられた件数	234	(94%)	264	(95%)	259	(93%)
受診したことを把握できた件数	177	(71%)	223	(80%)	208	(74%)
陰性結果を伝えられた件数	84,288	(98%)	114,587	(98%)	125,107	(98%)

特設検査機関アンケート						
	2006年		2007年		2008年	
アンケート送付数	9		11		17	
回答数	9	(100%)	11	(100%)	17	(100%)
陽性結果のあった検査機関	9	(100%)	11	(100%)	17	(100%)
陽性件数	191	(0.9%)	195	(0.80%)	164	(0.60%)
陽性結果を伝えられた件数	181	(95%)	180	(92%)	156	(95%)
受診したことを把握できた件数	132	(69%)	141	(72%)	123	(75%)
陰性結果を伝えられた件数	21,177	(98%)	23,943	(98%)	25,246	(98%)

【即日検査と通常検査】						
	2006年		2007年		2008年	
全体	501		566		533	
通常検査	269	(53.7%)	234	(41.0%)	219	(41.1%)
即日検査	141	(28.1%)	177	(31.0%)	182	(34.1%)
通常+即日	86	(17.2%)	150	(27.0%)	131	(24.6%)

【平日、夜間、土曜・日曜】						
	2006年		2007年		2008年	
全体	501		566		533	
平日検査	346	(69.1%)	290	(51.0%)	292	(55.0%)
夜間検査	116	(23.2%)	182	(32.0%)	157	(29.0%)
土曜+日曜	17	(3.4%)	79	(14.0%)	74	(14.0%)

【各種HIV検査の実施状況(保健所数の割合)】

	2006年		2007年		2008年	
全体	501		566		533	
通常 平日	205	(40.9%)	149	(26.0%)	164	(30.8%)
通常 夜間	51	(10.2%)	77	(14.0%)	44	(8.3%)
通常 土日	7	(1.4%)	5	(1.0%)	8	(1.5%)
即日 平日	141	(28.1%)	139	(24.6%)	128	(24.0%)
即日 夜間	65	(13.0%)	105	(18.6%)	113	(21.2%)
即日 土日	10	(2.0%)	74	(13.1%)	66	(12.4%)

【各種HIV検査の実施状況(受検者の割合)】

	2006年		2007年		2008年	
全体	86,604		117,521		128,249	
通常 平日	27,278	(31.5%)	18,630	(15.9%)	32,422	(25.3%)
通常 夜間	8,495	(9.8%)	15,465	(13.2%)	7,592	(5.9%)
通常 土日	2,373	(2.7%)	2,262	(1.9%)	3,528	(2.8%)
即日 平日	19,216	(22.2%)	20,726	(17.6%)	20,798	(16.2%)
即日 夜間	19,926	(23.0%)	28,267	(24.1%)	27,592	(21.5%)
即日 土日	6,721	(7.8%)	31,169	(26.5%)	35,178	(27.4%)

【各種HIV検査の実施状況(陽性者の割合)】

	2006年		2007年		2008年	
全体	249		279		280	
通常 平日	105	(42.2%)	36	(12.9%)	91	(32.5%)
通常 夜間	20	(8.0%)	77	(27.6%)	31	(11.1%)
通常 土日	8	(3.2%)	7	(2.5%)	6	(2.1%)
即日 平日	55	(22.1%)	43	(15.4%)	43	(15.4%)
即日 夜間	39	(15.7%)	50	(17.9%)	45	(16.1%)
即日 土日	18	(7.2%)	57	(20.4%)	60	(21.4%)